

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝運営理念を唱和し、意識づけをしている。運営理念に基づきながら、入居者様の個々のニーズに合わせるよう努めている。	運営理念が玄関に掲げられている。法人の「運営理念」と「ケアの信条」が明記された名刺サイズの小冊子を職員は常に携帯し振り返りをしている。朝の申送り時に唱和し管理者はじめ職員は共有し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の行事に参加したり、日々の生活の中で入居者様も地域の一員であることを意識しながら地域との交流を行なっている。	地元区に自治会費を払って加入している。回覧等により地区の行事は把握している。利用者と職員が公園の草取りなど奉仕活動にも参加している。地区のお茶のみサロンやオレンジカフェに利用者と参加するなど、地域の人々と交流している。保育園児がクリスマス会に来訪し利用者も楽しめたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ向けて出来ることを同地区のグループホームと取り組んでいる。また、地域の小学校との交流も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度開催し参加者からの意見や要望を取り入れ、その結果を次回の会議に報告しサービスの向上に努めている。	基本的には奇数月に開催し、家族、あんしん相談員(介護相談員)、市担当者、地域包括支援センター職員の参加により、日頃の活動報告を行い参加者から要望や助言をいただいている。家族全員に開催通知を送り何名かの参加協力が得られ、情報交換ができています。地区役員の出席が難しく、交替期でもあるので今後も参加を呼びかけていく意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を活用しながら、担当者へ事業所の実情や情報共有を行っている。	利用者の空き状況により、地域包括支援センターと情報交換を行っている。市の介護保険課とも制度改正について相談をしている。地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座で寸劇を行い協力もしている。あんしん相談員(介護相談員)も月1回来訪し利用者との会話や接していただく中での気づきを伝えていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に代わる介護方法を模索し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重要事項説明書に、法人としての「身体拘束の取り扱いに関する要綱」や「身体拘束廃止推進委員会」を設置する旨が明記されている。緊急やむを得ず拘束を行う必要性にせまられた場合には記録し検討することを説明し、家族からも同意を得るようになっている。委員会による研修を年1回開いている。	

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の資料を職員全員に配布し、事業所内で研修を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用している方は居るが、制度があるということがスタッフ全員に周知がされていない。全体会議を利用して周知を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解が得られるよう契約書に沿って説明をし、同意を得た上で押印をいただいている。改定時には再度契約の巻き直しを行ったり、覚書を作成し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、フリーダイヤルでの相談窓口を設置している。また、会社として年に1度ご家族に満足度アンケートを実施し、ご要望が反映されるよう改善目標の設定を行いそれを掲示している。	自ら希望などを伝えることができる方が多い。家族の面会も多く、その都度声掛けし意見や要望をお聞きしている。敬老会、クリスマス会には家族にも参加していただき交流している。法人として年1回家族アンケートを行い、生活や運営全般に意見を頂き、全体会議で検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議、スタッフ個別面談を通じて意見や提案を取り入れている。	毎月ユニット会議と全体会議を開き、職員間の意思疎通を図っている。法人本部で年1回職員の満足度アンケートを行い意見を反映させている。2～3ヶ月に1回管理者と個人面談も行き、意見や提案について聞き取りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜間休憩取得時間の把握を始め、勤務状況や労働時間の把握に努め、実績に反映している。スタッフの表彰制度などがあり、やりがいに繋がる環境を整えている。努力や実績を公平に評価し正社員の登用や資格支援制度等キャリアパス制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に資格取得支援制度や、資格取得後に社内で活かせる環境づくりに努めている。社内研修の取り組みのほか、社外研修を受ける機会も設けている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入し、勉強会や同業他社との情報を共有を行う事を推奨している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握の努めている。また、ご本人様が不安に感じていることや困っていることについてホーム内で共有し支援方法を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの介護生活を伺い、ご家族様のニーズに応えるためにホームとしてどのような支援が出来るかを話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為にも、担当のケアマネとの連携を図りながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずに、日々の生活の中で、お互いが協働しながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態変化の連絡の他、新たな発見や達成できたことなどをお便りだけでなく電話でも報告し、ご家族様と入居者様のより良い関係が作れるようにしている。また、ご家族にしか出来ない支援に関しては都度協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ仏様のお参りに行ったり、馴染みの美容室など通い慣れた場所へ行けるように支援している。	友人の来訪もあり、リビングでお茶を飲みながら和やかに過ごされている。リビングの電話も何時でも利用できるようになっており、家族に掛ける方もいる。独居だった方の自宅の様子を見にお連れすることもある。理美容院が利用者を迎えに来たり、ホームへの訪問美容を利用する方もおり馴染みの関係を継続するよう支援している。	

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士で過ごせるように努めている。役割や活動などお互いが気持ちよく行えるようにスタッフが間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの生活が損なわれないように生活環境や支援内容などを情報提供し、柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で把握できるように努め、意思疎通が困難な方にはご家族様から情報を得るようにしている。	殆どの利用者は思いや意向を伝えることが出来る。日々の暮らしでのつづやき等も記録し、職員間で周知しケアに活かしている。ラジオ・テレビ等の情報から好きなDVDをレンタルし鑑賞されるなど思い思いに過ごされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様に話を聞き、生活歴や馴染みの暮らしを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解すると共に、表情や言動から心身の状態把握に努めている。出来る事に着目しスタッフ間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の係わりの中で、思いや意見を聞き反映している。アセスメントを含めスタッフ間で意見交換やカンファレンスを行なっている。	職員は1~3名の利用者の居室を担当している。担当者の日々のチェック表を基に月1回のユニット会議でモニタリングを行っている。計画作成担当者が中心となり基本的には3ヶ月に1回、職員全員で意見を出し合い見直しが行われている。状態に変化が生じた時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個別ファイルを活用し水分量、食事、バイタルなど状況を記入し確認できるように努めている。状態変化やご本人様の言葉、エピソードを記録しスタッフ間の情報共有に努めている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて通院や認定更新手続きなど必要な支援を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括、近隣住民、自治会からの情報を元に、サロンや入居者様にとって楽しめるようなボランティアの方の受け入れを行い、支援体制を整えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や、ご家族様が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望に応じて対応している。スタッフが付き添いで行く場合には、ご家族様に受診前、受診後の報告を行っている。	利用契約時にホームの協力医等の説明を行うと同時に希望を聞き、利用前からの主治医を継続されている方と協力病院を主治医に変更される方がいる。協力病院から2名の医師が月2回ずつ往診に訪れている。また、訪問看護師も週1回健康管理のため来訪している。歯科医の訪問診療も行われおり希望に沿い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との契約に基づき、健康管理、医療面での相談や指示を頂いている。また、主治医との連携を図りながら対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の情報提供を行い、ご家族様と密に連絡を取りながら入院中の状態把握、実際に病院に赴いての状況把握、退院前のカンファレンスの実施に努め、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したした場合の対応にかかる指針をご説明し同意をいただいている。また、その時の事業所での対応力を見極めることを意識している。	「重度化した場合の対応にかかる指針」と「看取り介護にかかる指針」が作成されており、重度化した時に家族を含め医師・看護師・職員で話し合いを行い、同意を得ながら希望に副えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び、急変対応のマニュアルを作成している。また、避難訓練時に消防署の方から指導を頂いている。AEDの導入に伴い使用方法を定期的に学んでいる。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日防火用自主点検を行い、防火意識を高め、防火用自主点検シートに記録している。消防署にもご協力を頂き年2回(日中・夜間想定)の避難訓練を行なうように努めている。	防火管理者を中心に日中と夜間想定で年2回の訓練を計画し実施している。そのうち1回は消防署立会いの下に、通報訓練・避難訓練・消火訓練の総合訓練が行われた。地区への避難訓練の呼びかけを回覧で行ったところ、地区の方の参加をいただくことができた。AEDや救急救命訓練についても年間計画を立て全体会議の中で行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの気持ちを大切に、プライバシーの確保と個人情報の取り扱いには十分に配慮している。ご家族には個人情報使用同意書を頂いています。入居者様への声掛けは常に選択ができるような声掛けを心掛けている。	利用者の尊厳については十分留意しており、利用者への働きかけや名前の呼び方などにも人生の先輩としての敬意を込めている。契約書には「秘密保持」、重要事項説明書には「個人情報等の取り扱いについて」掲げており、利用契約時に同意をいただいている。また、個人情報の取り扱いについては、玄関にも掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や好きな事が日常的に出来るように働きかけている。自己決定が困難な方には、表情を読み取ったり、行動パターンを理解したり、ご家族様にお聞きしたりして思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご入居者様のペースや体調に合わせてながら選択肢があるように支援している。好みの把握やその時どう過ごしたいか確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。理美容院へは入居者様の希望の場所へ行けるように支援している。また、地域の美容師がホームへ来て理髪できる体制をとっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑で栽培した野菜をメニューに入れるようにしている。時には、ホットプレートを活用し皆様の目の前で調理し、召し上がっていただいている。ご希望のある入居者様とは一緒に調理している。献立の掲示はもちろん食事メニューの説明なども加え、美味しく召し上がっていただけるようにしている。	本部の管理栄養士からの献立表を参考に利用者が栽培した野菜などを取り入れアレンジしたり、スーパーに利用者と一緒に買い出しに出掛けている。肉・魚・牛乳は地元の業者に配達をお願いしている。メニューを変更した場合はホームから本部へメニュー報告し、意見を頂いている。調理専門のスタッフがおり利用者も片付けなど力量に合わせて一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を確認し、栄養バランス、水分量が取れるように支援している。食事制限がある方には物足りなさを感じないように、低カロリー食材を使い量を増やすなど工夫して提供している。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせて、声掛け、支援を行っている。口腔内に異常があったときには連携先の歯科医に往診していただけるような体制を確保している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら身体機能に応じたトイレで排泄ができるように支援している。必要以上の排泄用品の使用が無いが常に話し合い、状況に合わせて対応をしている。	排泄チェック表により一人ひとりの状態を把握しており、時間で声掛けを行い見守りと一部介助などの対応をしている。オムツで全介助の方もおり、定期的に交換などを行っている。便秘気味の方には下剤を服用していただくなど医師と連携し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保。軽運動や散歩など個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様に確認し希望の曜日や時間に入って頂いている。また、入浴の楽しみのひとつとして、好きな入浴剤を選んで頂いている。意思疎通が困難な入居者様に対しては、生活リズムに配慮したうえで、入浴時間を決めている。	基本的に週2回を目安に入浴予定表を作成しているが、その都度声掛けしながら希望に応じて入浴していただいている。ユニット毎に機械浴も備えられており、身体機能に応じた支援をしている。ゆず湯やりんご湯などで季節感を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。寝付けなときにはお茶などを飲みながら会話をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人のファイルに綴りスタッフが把握できるようにしている。服薬前には名前、日付を声に出して確認し、確実に服用して頂けたかの確認をしている。薬のセットミス防止の為、薬のセット者を固定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの力を発揮できるように、お願ひできそうな仕事を行っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	習慣や楽しみに合わせ、買い物、外食、季節行事に外出している。ご本人様にしか分からない場所などには、ご家族様にもご協力して頂きながら外出支援させて頂いている。	行事当番が1ヶ月前に外出や外食などの計画をユニット毎に立て、季節を感じていただけるよう支援している。落ち葉拾いに出掛け、湯田中温泉で足湯も楽しんできた。落ち葉はラミネートしてしおりを作り、お世話になった方に差し上げたという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご本人様が安心できるのであれば小額でも所持金を持って頂けるよう家族と相談し所持していただき、いつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由に使用して頂けるようにしている。ハガキや手紙なども書く事が出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り付けと一緒に考え行って頂き、自分が住む家だという意識を高めて頂いている。また、入居者様の作品などを展示することにより、達成感を感じて頂けるようにしている。	リビングの一角が以前は畳の小上がりのスペースとなっていたが、フローリングでフラットにしソファが置かれており、自由に過ごせるスペースとなっている。お雛様も飾られており季節感が感じられた。壁に電車の時刻表が貼られ、家庭的な雰囲気が醸し出されている。トイレには男性用の小便器も設置されており、男性利用者への配慮がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置に配慮し落ち着けるスペースづくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物ではなく、ご本人様が長年使ってきた馴染みのある物を持って来て頂き、今までの生活に近い環境で生活して頂けるようにしている。	ベッドが置かれ、畳、カーペットなども自由に敷かれている。仏壇や筆筒など馴染みの物を持ち込まれている居室、各地区の地図やパンフレットなどを壁に隙間なく貼られている居室など、自分の城としての雰囲気が十分感じられ居心地の良さがうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所が分かりやすいように目印を付けている。また、手すりやスロープを取り付け、安全に自立した生活が送れるようにしている。		